

令和元年度 教員免許更新講座 認定テスト 評価基準（中嶋）

- (1) 「自律的学習者」を育てるために、今の指導のどの部分をどう変えたいかについて具体的に述べよ。
- A+ – 指導改善の「具体策」が系統的に述べられている。
  - A – 指示が多いという問題点は認識しており、「具体策」も述べられているが、つながりがない。
  - B – 問題の捉え方や改善策が抽象的（一般論）である。
  - C – 問題点があまり認識されていない。また、方策も述べられていない。
- (2) 「学習指導要領」で自分の授業を自己診断し、気づいたことを述べ、その解決策として今後どのように指導やテストに取り組むかについて具体的に述べよ。
- A+ – 「これまでの指導で抜けていた点」を反省し、今後の改善点が具体的に示されている。
  - A – 「これまでの指導で抜けていた点」を項目で挙げ、今後の取り組みを述べている。
  - B – 「指導で抜けていた点（意識できていなかった点）」を挙げているが、具体策がない。
  - C – 「指導で抜けていた点（意識できていなかった点）」が挙げられていない。
- (3) 「やり取り」の指導について3年間(中学校、高等学校のいずれかを選ぶ)の計画について具体的に述べよ。「帯学習」と「教科書」を使った指導とに分けること。
- A+ – 即興の「やりとり」の指導を正しく理解し、系統的に学習計画が立てられている。
  - A – 「帯学習」としての計画はあるが、テキストとの関連を踏まえたやりとりの計画がない。
  - B – どちらかという Q & A の「練習計画」で終わっており、自由度を高めた課題が弱い。
  - C – 「やりとり」と「パタン・プラクティス」の違いが認識できていない。
- (4) 講座を通して、自分の授業の悩みを解決する見通しが生まれたという部分を一つ選び、具体的にその方策を述べよ。
- A+ – 自分の授業の問題点を的確に認識し、つきたい力の「ゴール」から逆算できている。
  - A – 「問題点」に気づき、具体策を述べているが、原因（教材観の見直し）についての言及が足りない。
  - B – 「悩み」を「問題点」として捉えられていない。解決策が講座の内容とつながっていない。
  - C – 「授業の悩み」ではなく、同僚との人間関係や生徒指導の悩みになっている。

● A+の評価は25点、Aの評価は20点、Bの評価は15点、Cの評価は10点とする。